

三宝院

玄関

三宝院は醍醐寺の僧院で、玄関が2つあります。小玄関から入る小さな部屋は、竹の間と呼ばれます。正面玄関から入った大きな部屋は「富嶽の間」と呼ばれています。富嶽の間の隣には、待合室である日・月・海の間があります。

部屋には、竹、桜、季節の風景、富士山が描かれた屏風が飾られています。日・月・海の間の絵は、1998年の三宝院の庭園400周年を記念して、1997年に現代風景画家である浜田泰介（1932-）によって描かれました。